



象 徴

今回、私は広島へ調布市の代表として、派遣された。

真夏の広島は、「暑い」どころのさわぎではなかった。立っているだけで、体中から汗が噴き出したくらいだ。だが、今は休けい所として、あらゆる所にクーラーの効いたお店や、コンビニがある。こんな便利で、快適な社会になった現代。ほんの数十年前までは、多くの人々が血を流し、家族のことを想ったのだろう。今じゃ、その歴史は資料館等に納められている。それどころか、一部では「原爆ドーム」が、観光スポットになりつつあるらしい。確かに「原爆ドーム」は、広島や戦争の象徴とも言える。だが、観光スポットではないと、私は思う。言うなれば、「遺産」とでもいうのだろうか。歴史が残し

た、遺産。それが、自分にとって、一番しっくりくるのだ。

私は、8月12日に行われた、神田さち子さんの芝居(※)を見て考えた。日本から見れば、さも日本は被害者だが、他国から見ると、日本は加害者でもある。韓国を攻撃し、更にアメリカの領土すらも攻撃した。これは、日本がふっかけたケンカを、双方は買っただけではないだろうか？だがやはり、個人同士の揉め事=ケンカになるが、国同士ではケンカ=戦争になってしまう。そうなれば、戦うのは一体誰か。それは、国民だ。国のお偉いさんではなく、国民。そこに拒否権なんてなく、人権もないに等しい。「民さえ生きれば、国は死なない」と、私はどこかで聞いた事がある。国を造っているのは、王様

ピースメッセンジャーとしての私

『平和』が当たり前
 になってしまっ、戦争
 の悲さんさや、命の
 尊さを忘れてしまっ
 ている人達が少な
 からず居る。それは、
 今を生きる私達にも
 当てはまる事だろう。
 私は、忘れてしまっ
 た人達へ戦争を知らない
 人達へ『平和』の大切さ
 を伝えたい。

調布

私が広島に行った動機や行く前の感想込み

7月29日〜31日
広島に行ってきました



1.

 ・原爆の子の像
 ・原爆ドーム
 ・平和記念公園 ... etc.
 (銀行の窓口
 オープン!)

2.

 フェリーで『広島』へ。
 島の歴史や、戦時中の状況を学ぶ。
 午後は島の運糧道。
 広島へ戻り、『立憲中学校』の思い出。

3.

 『原爆の子の像』へ新しい贈り物。
 何十万羽のララのフクロ。

End,
 私達こめろ多くの人の
 平和の尊さ、命の重さを伝えたい。
 そして、世界中の人に
 愛を届けたい。

広島

福澤 優

調布市立第七中学校 (2年)

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

の様な偉い人ではなく、国民だ。国民という土台を無くしてしまえば、城は崩壊する。支えてくれるものが無いのだから。けれど、私達1人では、世界に何かを伝えることは出来ない。その役目を担うのが、国のトップである人達。つまりはどちらが無くなるとは駄目なのである。

つい最近では、ある政治家が「戦争をす
 るしかない」と、ニュースで取り上げられて
 いた。それを聞いた私は、頭に血がのぼっ
 た。「なんて無責任なのだろうか」と。今の
 時代もしかしたら、たった1つの何気ない言
 葉で戦争がおきてしまうかもしれない。

他には北朝鮮の、核ミサイルだろう。あれ
 は正に、「戦争の象徴」だ。全ての事を、武

力で制圧するのか？争いが、一体何を生ん
 だのだろうか。悲しみや、絶望しか生まな
 ったはずだ。そんな世の中に、またなっ
 て欲しくない。そのためにも、国同士の問題や、
 世界で起きている紛争の課題を解決しな
 くてはならない。そしていつか、核という存在
 がゼロになり、それが「平和の象徴」にな
 れば良いと願う。

(※)

ピースメッセンジャーの活動の一環として、
 令和元年8月12日(月)に神田さち子ひとり
 芝居「帰ってきたおばあさん」を観劇しました。
 (本報告書55ページ参照)



広島派遣を終えて

僕が今回の広島派遣で感じた事は3つあります。

1つ目は、原爆の悲惨さです。似島の自然の家で原爆が投下されてから、街が被爆するまでをCGでシミュレーションした映像を観ました。エノラ・ゲイ号のリトル・ボーイが投下され、上空約600メートルで爆発して直径4キロメートルが一瞬で破壊されました。被爆し、即死した人は階段に黒い影だけ残して消えました。かろうじて生き残った人は皮膚がただれる程の大きな火傷を負って、「水をくれ、水をくれ。」と言い残して死んでいきました。僕にはこのように死んでいった人の気持ちはどうも測り知れません。ただただ涙がでました。

2つ目は、広島に原爆が投下された理由に衝撃を受けたことです。理由の1つに、広島の地形が原爆の威力を確かめるための実験場所に適していた事があげられます。広島には、軍需基地や住宅があり、原爆の威力が最大に発揮されるので成果が観測しやすいと思われたからだそうです。また、日本は降伏するぐらいなら死ぬべきだと教育されていたため、なかなか降伏せず、戦争が長期に渡る事をさけるために原爆が投下されたとも言われています。しかし、どんな理由があろうと決してこのような残酷な事を起こしてはいけないと思いました。

最後に今を生きる僕たちがこれからできる事を考えました。国同士の争いは国同士

ピースメッセンジャーとしての私

僕がこの広島派遣に行こう
 と思、た理由は、僕は糸冬戦争
 記念日の8月15日生まれました。なので二度と
 この戦争を起さないと心に決めて平和の
 ために思い参加しました。
 派遣に行く前の意気込みは、僕は
 この派遣を通じて原爆の事を多く知り
 そしてこの戦争を起さないと心に決めて
 いいのから変わらなかなと思、ています。

調
布

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日、31日
広島に行ってきました



1日目に平和記念公園に行き、様々な歴史
 に行き、その歴史を学ぶことができました。

 2日目は、広島で原爆が投下された歴史を
 街の石皮剥き剥きまでのシミュレーション動画を見
 ました。次に原爆が投下された歴史を
 体験しました。

 ロースメッセンジャーとして
 僕はこれからロースメッセンジャーとして
 平和のために何かできるか僕の家族や友達に伝えて
 いきたいと思っています。

広
島

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

福島 帆高
ドルトン東京学園中等部(1年)

の関係が悪くなり起こります。これは人間
 関係でも言えることなので、まず人間関係
 が悪くなった原因を探ることで修復する事
 ができると思います。そして、互いを思いや
 って生きていければ争いごとはなくなるの
 ではないでしょうか。また、平和の尊さを僕
 たちの次世代へ語りつないでいく事も大
 切です。これから生まれてくる僕の子供や
 孫にこの事を伝えることで世界の平和をつ
 ないでいく事ができるのだと思います。

僕はこの経験を通して、たくさんのこと
 を、感じ、考え、学びました。過去のつらい
 経験を決して忘れず、後世に語りつぎ、互
 いに思いやりをもって生きていけば必ずこ
 の世界を平和にする事ができると思います。
 最初は小さな一歩からでも今できる事

を各々がし続けていく事で世界が少しずつ
 変わっていきけるはずで。いつか争いのな
 い平和な世界を目指して頑張っていきたい
 と思います。

ドルトン東京学園中等部(1年)



広島へ行って

福村
麻人

7月29日から31日までの2泊3日、調布市が企画した「調布市広島平和派遣」に参加し、広島で「平和」について学ぶ機会をいただきました。

もともと僕は戦争が嫌いです。学校等で戦争について学習はしてきましたが、戦争について深く知る事に恐怖を感じていたのでわざわざそれ以上の知識を得ようとは思いませんでした。しかし、調布市のこの企画を聞いたとき、もっと関心を深めようと思って応募したのです。

第1日目。羽田空港から飛行機で約1時間半、広島空港に到着した後、バスに揺られて着いた場所は、原爆ドームでした。1日目はここで平和学習を行いました。原爆ドーム等、平和記念公園を中心に見た後、平和記念館に入りました。平和記念館には、被

爆された、たくさんの方々の私物などが展示してありました。展示物である、弁当箱やベルトなどを見ていると、当時の惨状をまのあたりにしたようでした。

2日目。この日は街を出て、似島(にのしま)という島に着きました。ここはもともと、日清戦争から第二次世界大戦にかけて、検疫所や馬匹(ばひつ)検疫所が造られた軍の島でした。終戦まで検疫の仕事は続けられたが、戦局が悪くなるにつれて帰還した兵が少なくなり、病院としての働きが多くなったのです。しかし、1945年8月6日。広島に原子爆弾が投下されて、似島は臨時野戦病院になります。約5千人分の医薬品がありましたが、それを遥かに上回る約1万人の負傷者が来たそうです。「皮膚ははがれ、風すらも痛む。そして、水を飲めない患者たちはバタバタと死んでゆく。」僕は



広島を訪れて考えたこと

松本真紀

広島に行く前は、正直ただ原爆や戦争はだめだと思っているだけでした。しかし、広島で資料館や体験者のお話を聞くにつれて私が思っていた原爆の悲惨さやむごさを何百倍も超えてきました。原爆についての知らなかった事も多かったです。原爆によって多くの人の命だけでなく、生きる気力を無くした人や大切な家族や友人を亡くして苦しんできた方々も多くいることを知りました。

広島に行って特に気になったのは似島のことです。似島は広島本土と違い原爆の影響は少なかったですが、原爆によって火傷をした人や傷を負った人の看病のために使われました。私はこの似島の存在を知りませんでした。似島では丁寧に埋葬することができず大量の遺体を埋めたそうです。人工的に作られた、たった1つの兵器で

一瞬にして多くの人が身元もわからなくらいの状態で亡くなってしまった現実を知り、言葉に出来ないくらい悲しくなりました。

平和記念公園では中でも市民が書いた絵や原爆が投下した直後の写真が心に残っています。見る前は、遠い世界の出来事であまり身近に感じられなかった所もあったのですが、原爆投下前後の原爆ドームや町の様子を見比べたり、展示を見ているうちに、これはここで現実におこったと目の前にせまってきました。他にも全身に火傷を負った人の顔や死の斑点ができた兵隊の絶望に満ちた顔。写真の他にも被爆者の描いた当時の絵、亡くなった方々の遺品とエピソードを見て心がしめつけられました。

まだ広島の下にはがれきがたくさん

ピースメッセンジャーとしての私

今回の派遣で多くの
人に戦争の悲惨さを
伝えたいです。
また、「平和とは何か」
「戦争とはどのようなものか」
という事を自分なりに
考える機会にしたいです。
広島では人々の思いを
しっかり感じたいです。

調
布

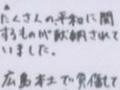
私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日～31日
広島に行ってきました



松本 真紀
晃華学園中学校 (1年)

<体験した事>

 旧日本館は平和記念公園
で、ガイドさんにいろいろお話を
聞きました。例えば、平和の鐘
には、側面に国境の無い
世界地図が彫られていて、
鐘のすわりにある水の中には、
原爆で傷を受けた人々の傷をいやす
ためにあると書いてありました。
2日目は、広島に行きました。広島は
原爆の被害にあり、おぼろげに

 広島市で原爆体験した方の話を聞きました。場所ですが、
多くの人々が原爆をうけた場所を知りました。
3日目は、原爆で被災した方の講話を聞きました。
とても刺激的で、こんなことお話を聞かなくていいかなと

<ピース メッセンジャーとして>
 私は3日間、原爆の言葉にさらされた恐怖や、
原爆によって多くの人が亡くなった、被災した人々の
悲しみを知りました。この知った事をなるべく多くの
人に伝えたいと思いました。また、興味を持って、いっ


広
島

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

つまっています。戦争前は普通の幸せな生活があり、戦争によってそれがこわされ体も心も傷ついて、でも必死で今まで生きてきた人達。広島派遣中、私はたくさんの思いの上を歩いているのだなと思いました。

今のような平和な風景を焼け野原に、たくさんの死体、がれきの山など残酷な風景にしたいくないと思いました。そのために私達のような世代も次の世代に伝えないといいないと思います。

今回広島を訪れて、原爆で傷を負った人も残された人もずっとつらい思いをかかえて生きてきたことを知りました。経験者が少なくなっているからこそ、平和に対する意識が重要になってくると思います。

たくさんの方々が苦しむ原爆のことを伝

えるために、また今の日本のような平和を保つためには私達一人一人が戦争や原爆の恐ろしさや悲しみを、まず興味を持って知っていかなければいけないと思います。

家では、私の広島派遣を機に似島の特集や戦争に関するテレビや展示を見るようになりました。また、平和について家族で話し合うようにもなりました。今度は友達や学校、周りの人々にもこの事を伝えていくことがピースメッセンジャーである私の役目だと思います。

晃華学園中学校(1年)



僕が広島で学んだこと

吉田
幸志朗

僕が広島に行って学んだこと、思ったことは戦争によって軽々しくばわれた、決して戻ることのない命、そして広島でおきた惨劇を決して忘れてはいけないと思いました。

中でも僕が1番印象に残ったことは、似島へ運びこまれてちゃんとした手当てをうけることのできなかった人達についてのことです。体全体に、大火傷をおったのに、薬が足りなくて、薬を代用したものをぬるほかなく、手当ても無事に受けられなかったと聞きました。また、麻酔なしで手や足の切断手術をする人の希望をつのると1人の少女が手術を希望したそうです。手術は行われましたがそのときのひどい断末魔のようなさげびを今でも忘れられないと当時の医

師が言っていたそうです。これらの話を聞いて、原爆で生き残った人も治療に当たった人もつらい思いをしたのだと思い、胸が痛みました。

ほかにも平和記念資料館で見た、火傷のあとが盛り上がり、体全身がケロイドになってしまうということや、とびちったガラスの破へんが体のいたるところにささって、そのままろたえて亡くなって行く人などとても印象的でした。

最後に僕は戦争が僕たちに残したものについてよく考えてみました。戦争が残したものは苦しみ、悲しみそして憎しみだけです。誰かがお国のためと言って死んでいく戦争は勝っても負けても誰も得することなく、

ピースメッセンジャーとしての私

広島に行くにあたって
 私がこの広島平和派遣にあたって僕は20日ほど前
 程で広島で広島平和派遣と自分で行くという
 ことになっていました。理由は、この戦争
 戦争の恐れは減らない世代の僕たち
 が未来をになっていく上で、
 二度とあってはならないことを
 し、かりと理解してここでこれから
 の未来になって行きたいからです。
 そして、世界中から核がなくなり
 たあそびが笑顔になれるような世の中
 たいです。

核兵器廃絶！！

7月29日 吉田幸志朗

調布

私が広島に行った前様や行く前の意見込み

7月29日〜31日
広島に行ってきました



吉田 幸志朗
調布市立神代中学校(1年)

広島平和派遣初日
 7月29日の朝、初日は広島平和
 記念館を見学しました。
 広島平和を見学して、
 死者の苦痛に驚きました。

広島平和派遣 二日目
 二日目は、広島平和記念館
 を見学し、一言一語が
 胸に響きました。戦争の
 生々しさや、悲しさが
 伝わりました。

広島での平和メッセンジャー
 戦争の怖さは、核兵器
 廃絶に向けて四世の人
 や、さまざまな世代の人達
 に伝えていき、世界が平
 静になることを
 目指します。

吉田幸志朗

広島

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

むだに命を失うだけなのです。これは、皆が
他人事だと考えているからおきることであり、
自分の身に置き換えて1人1人何がで
きるか考えることが大切だと思いました。



調布市立神代中学校(1年)



平和とは 原爆とは 戦争とは

涌井
董子

14万人。

あなたはこの数字が何か分かりますか？

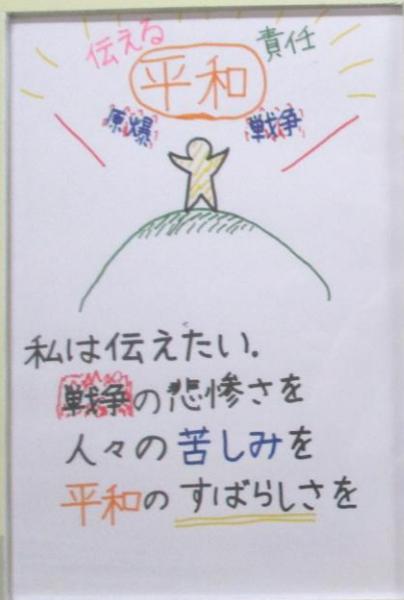
1945年8月6日に人類初、原爆が広島に投下され、命を奪われた人の数なのです。今も苦しんでいる人がいます。

今回、私は調布市ピースメッセンジャーとして広島に派遣された。ピースメッセンジャーとは、調布市民の代表として被爆地である広島を訪れ、戦争・平和に関する現地施設の見学等を通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で感じ、そして学び、成果を広く市民へ還元することを目的としたものである。今回は私を含め、12名の中学生で被爆地である広島へ訪問した。

私は6年生の時の自由研究で原爆について調べ、私の祖父や祖母、いとこの住んでいる新潟も原爆投下の候補地に挙げられていたことを知り、私も無関係ではないと思い、戦争についてもっと深く学びたくて応募した。

今回は7月29日から31日までの2泊3日で広島へ訪問した。初日は、広島平和記念公園で、原爆ドームや原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像や広島平和記念資料館等に行き、広島市に原爆が落とされた苦しみを肌で感じた。2日目には船で、被爆者が治療を受けに渡った似島へ渡り、被爆者の心の深い傷を知った。そして最終日には、原爆の子の像に調布市の皆さんが心をこめて折ってくださった折り鶴を私達の手で献納し、広島派遣が終了した。

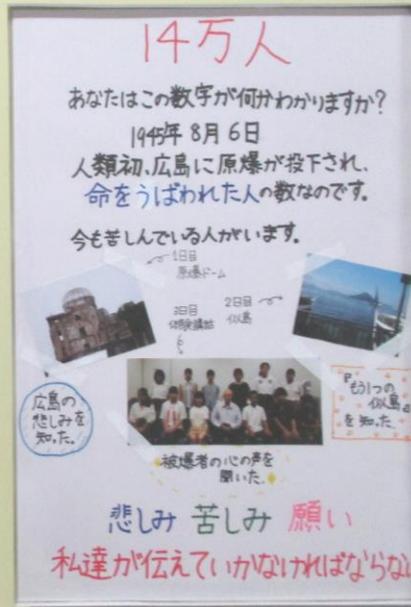
ピースメッセンジャーとしての私



調布

私が広島に行った動機や行く前の意見込み

7月29日～31日
広島に行ってきました



広島

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

高井 薫子
明治大学付属明治中学校 1年

私の中では似島がとても印象に残っている。遺構巡りを通し、船に乗っている間に死んでしまった人がいることや、生きるために麻酔なしでも手術を希望し、左腕を失った少女がいたこと、また、防空壕を死体安置所替わりに使っていたこと等のエピソードを聞くことで、その時の様子を心と体で知ることで、とても怖くなった。

特に、麻酔なしの手術をした少女の話では、もし自分がその立場だったら自ら手術を申し出ることができたのだろうかと自分に問いかけたりもした。また、この後、救護室の院長は再び少女に会うことになる。院長は多くの人の命を救えなかったことを悔やんでいたが、その少女が生きていたことで、心に刺さっていたトゲが一本取れたような気がしたようだ。勇気を出した少女、そしてその命を救った院長の話聞き、命の大

切さを改めて感じた。

戦争がどれだけ悲惨なものか、そして平和がどれだけ大切なのか、私の心に深く刻まれた3日間だった。原爆というものは本当に恐ろしい。無差別に人を殺していく。そんなに醜いものなのにまだこの世界には原爆がいくつも存在している。だからこそ私達が率先して戦争・原爆の恐ろしさを、そして、平和の尊さを後世に伝えていかなければと感じた。

安らかに眠ってください
過ちは繰り返しませぬから